

1. 高気圧酸素治療におけるスクイーズの発生とその対処

藤田幸治 小笠原孝司 柴田唯子
鎌田 桂 金谷春之

(岩手医科大学高気圧環境医学室)

【目的】高気圧酸素治療を有効に行なうためには、治療までの加圧や減圧を適切に行なわれなければならない。治療中や減圧時にスクイーズが発生した場合には、障害を起こさないように対処しなければならない。我々は、臨床に使用している治療表において、昭和62年6月から平成2年6月までの患者数696名、延べ治療回数11,957回について加圧速度を一定、減圧速度を一定にした場合のスクイーズの発生頻度と発生傾向、加圧や減圧による対処の方法について検討を行なった。

【方法】治療日誌より、昭和62年6月から平成2年6月までの3年間にスクイーズの発生した回数と圧力、患者名、年齢、性別、病名、中止者を調べた。

【結果】延べ治療回数11,957回中423回にスクイーズが発生し、1.3ATA以下では93回、1.3ATAから1.8ATAでは295回、1.8ATA以上では35回であった。また患者数においては696名中216名(31.0%)にスクイーズが発生した。治療圧への加圧途中にスクイーズの発生が一回で済んだ者は158名(264回)であった。この中21回(7.9%)は1.3ATAまでの間に発生し、1.3ATAから1.8ATAの間で

は218回(82.6%)であった。一方、加圧途中にスクイーズの発生が複数回見られた者は106名(159回)あり、この中72回(45.2%)は1.3ATAまでの間に発生し、1.3ATAから1.8ATAの間では77回(48.4%)であった。1.3ATA以下でスクイーズが発生した者は、加圧不可能による中止者5名。一方治療圧に達することができた者でも、複数回の加圧停止、減圧を必要とした。1.3ATAから1.8ATAの間では、加圧不可能による中止者3名。一方治療圧に達することができた者は、1回の加圧停止、減圧で達成できた。1.8ATA以上では加圧不可能による中止者1名。治療圧に達することができた者も1回の加圧停止、減圧で達成できた。

【結語】スクイーズは治療初回時の1.8ATAまでの間に多く発生する。1.3ATAまでの間に発生したスクイーズは、治療圧に達するまでに加圧停止—減圧—加圧の操作を複数回必要とした。1.3ATA以上1.8ATAまでの間に発生したスクイーズは、その気圧を通過すれば治療圧まで支障なく加圧可能であった。1.8ATA以上でもスクイーズは発生する。スクイーズによる治療中止者は発生者の4.1%であった。